第12課　交通機関（その２）

１．この課のねらい

(1)　鉄道を利用する際に、目的地までのキップを正しく買えるようにさせる。周りの人に助言を求めるための表現を身に付けさせる。

(2)　乗り場の尋ね方、目的地へ行く電車に間違いなく乗るための言葉遣いを習得させる。

(3)　忘れ物をしたとき、忘れた物や、忘れた場所などを正しく伝えられるようにする。

２．学習項目とその扱い方

〔会話―１〕

(1)　学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○六本木へ　行きたいんですが…。 キップの買い方が　分かりません。(3)	○六本木は、日比谷で　乗り換えて …ええと　240円ですね。(4)
重要項目		○お金を　入れて　240円のボタンを　押すと　キップが　出てきますよ。(4)

(2)　準備

自動券売機の絵、鉄道の路線図及び運賃表（学習者が日ごろ利用している交通機関のもの）を用意する。この課については、地下鉄、電車にこだわらずに、日ごろ利用している交通機関にあてはめて応用練習をすることが重要である。

(3)　導入

自動券売機の絵、路線図、運賃表などをすべて並べて、教科書にあるような表現を使って、教授者が学習者にキップの買い方を尋ねる。次に、会話本文のテープを聞かせる。

(4)　練習

①本文のテープを繰り返し練習し、林さんの会話のところが、なめらかに言えるようになるまで、十分練習をする。「六本木」の部分には、学習者がよく知っていて利用しそうな駅名を、適宜入れかえながら練習する。

②①の練習が終わったら、行き先を指定し学習者に尋ねさせる。教授者は、目的地への行き方、運賃、キップの買い方などを、教科書に拘束されないで答える。その後に、教授者の答えについての学習者の理解を確認する。

③「～方」については、実例をあげながら学習者に理解させていくとよい。

例えば、テープレコーダーを見せて、「これからテープレコーダーを使います。使い方を教えます」と切り出し、「まず、テープの入れ方です。テープを入れるときは、まずこのふたを開けます。このふたの開け方ですが、このボタンを押すとふたが開きます。そして、こういうふうにテープを入れます。次に聞き方です。……」と「____方」という表現を自然におりまぜながら、細かくテープレコーダーの使い方を説明する。次に、教授者が学習者に「テープの入れ方を教えてください」と尋ね、答えさせる。以後、学習者同士で、聞き方、止め方、巻き戻し方、進め方などを問答させる。その他、かばん、シャープペンシル、筆箱、かさなど教授者や学習者の持ち物でいろいろ「____方を教えてください」という問答ができる。

また、このとき〔1．表現練習〕を使い「すみません、～の～方が、分かりませんので教えていただきたいんですが」が、なめらかに言えるようになるまで練習する。

〔会話―2〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○ちょっと　伺いますが、この電車は　桜台へ　行きますか。(1)	○これは　急行だから、止まりませんね。各駅停車に　乗ってください。3番線です。(2)

(2) 準備

学習者が利用している（あるいは利用するだろうと思われる）路線名や駅名を入れた応用会話を作り、テープに録音しておく。

(3) 導入

①まず、学習者に「毎日、電車に乗りますか」「どこからどこまで乗りますか」「何分ぐらいかかりますか」「いくらかかりますか」「昨日、電車に乗りましたか」など、電車の利用状況について尋ねる。このとき、「各駅停車」「快速」「急行」「特急」などの言葉も関連表現として学習させておくとよい。

②その後、本文や応用会話のテープを聞かせ、状況、内容（特に駅員の指示）につい

て理解しているかどうか質疑応答により確認する。

(4) 練習

①「ちょっと伺いますが、この電車は桜台へ行きますか」という表現が、なめらかに言えるように十分練習する。「桜台」のところには学習者の状況に合わせて適宜駅名を入れかえながら練習する。

②口頭練習が終わったら、教授者と学習者でロールプレーをする。あらかじめ行き先を指定しておき、学習者に電車の行き先を尋ねさせ、それに対し教授者は、教科書に拘束されないで答える。その後に、教授者の答についての学習者の理解を確認する。

〔会話―3〕

(1) 学習項目表

区分	使　用	理　解
最重要項目	○六本木へ　行きたいんですが、どの電車に　乗ったら　いいんでしょうか。(3)	○ちょっと　わたしも　分からないなあ。駅員さんに　聞いてください。(4)

(2) 準備

〔会話―2〕と同様に、応用会話テープを作っておく。〔3．会話練習〕も一つの応用として使える。また、「ちょっと、わたしも……」のところは、「さあ……ちょっと……」とか「わたしも分からないんですけど……改札で聞いたらどうですか」など、いろいろな表現を使うとよい。

(3) 導入

①本文と応用会話のテープを聞かせる。

②または、黒板に「○○行きは○○番線」というふうに、二、三の乗り場を示す。教室が駅で、教授者が乗り場が分からないという場面を作って、「六本木へ行きたいんですが、どの電車に乗ったらいいんでしょうか」と言って、学習者に乗り場を尋ねる。学習者は、板書されている行き先について答えるが、板書されていない行き先の場合には、「ちょっと分かりません」とか「駅員さんに聞いてください」とかいうような応対ができるようにする。

また、次に教授者と学習者の役を交替して、学習者に乗り場を聞かせてみる。

(4) 練習

まず、〔2．表現練習〕を使って「～へ行きたいんですが、どの～に～たらいいんで

しょうか」がなめらかに言えるようになるまでよく練習する。

〔会話―4〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○すみません。六本木へ　行きたいんですが。(1) ○はい。日比谷線で　中目黒方面ですね。(3)	○日比谷線ですね。あの矢印のとおりに　行って、中目黒方面の電車に　乗ってください。(2)

(2) 準備

〔会話―2〕と同様に、応用会話のテープを作っておく。(教科書P.167参照)

また、電車や地下鉄路線図も用意する。

(3) 導入

本文や応用会話のテープを聞かせて、学習者が、どのくらい理解できるか確認する。

まず黒板に矢印を書く。まん中に上向きのもの、右側に右向きのもの、左側に左向きのものを書く。矢印という言葉もここで教える。〔会話―3〕の続きで学習者に乗り場を尋ねさせる。教授者は初めは比較的やさしい言い方で指示を与えて、それぞれのやりとりが終わったら、学習者の理解を確認する。指示を与える際には黒板に書いてある矢印も利用する。

(4) 練習

テープを繰り返し練習した後、教授者と学習者あるいは学習者同士でロールプレーを行う。用意しておいた路線図を使って、どこかの乗り換え地点を設定し、あらかじめ黒板に電車の乗り場を示す矢印をいくつか書いておいて、これを指さして場面練習を行うとよい。

学習者の口がよく回って余裕があるようなら、指示の言葉を徐々に難しくしていき練習を続ける。「日比谷線で中目黒方面ですね」などの確認の表現なども適宜使わせる。

〔会話―5〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○すみません。忘れ物を　したんですが。(1) ○今の　大宮行きです。(3) ○あちらです。(駅員を自分の降りた場所に連れて行く。) (7) ○ちょうど、この辺です。右側の網棚の上なんですが。(8) ○かばんです、肩に　掛ける。このぐらいの大きさで。(10) ○ええと、ちょうど、あんな色です。(周りの人のかばんを指して) (12)	○じゃ、連絡しますから、ちょっと待っていてください。(15) ○赤羽駅に　ありますから、取りに行ってください。(17)

(2) 準備

忘れた物及び忘れた場所を伝えているテープを用意する。忘れ物のほかに、落し物、迷子、盗難などの例も含め、できれば十会話ぐらい作っておきたい。

(3) 導入

本文のテープや用意した応用会話のテープを聞かせて、学習者がどのくらい理解できるかチェックする。

(4) 練習

①いろいろなものを他人に説明する練習をする。

②まず、かばんを持っているかどうか尋ね、それがどんなかばんか説明させる。続いて、「いろいろな鍵がありますね。どんな鍵がありますか」、「いろいろな辞書がありますね。どんな辞書がありますか」など、いろいろなものを描写させる。大体、できるようになったところで〔4．表現練習〕に倣って口頭練習を行う。次に、電車の中のいろいろな場所を表す表現を練習する。その際には電車の内部の絵を板書するか写真を用意する。

3．文型・文法に関する参考事項

活用形による動詞の分類は、第８課（P.62）に示したが、ここでは動詞の活用形を中心に示す。

	辞書形	～ます	～て	～た	～ない	可能形	仮定形	意志形
1	書く 読む	書きます 読みます	書いて 読んで	書いた 読んだ	書かない 読まない	書ける 読める	書けば 読めば	書こう 読もう
2	食べる 見る	食べます 見ます	食べて 見て	食べた 見た	食べない 見ない	食べられる 見られる	食べれば 見れば	食べよう 見よう
3	する 来る	します きます	して きて	した きた	しない こない	できる こられる	すれば くれば	しよう こよう

以下にあげる動詞は辞書形で見ると２のグループの動詞と同じ形(「え段＋る」又は「い段＋る」で終わる）をしているが、「～ます」「～ない」の形を作ってみると分かるように１のグループに属する動詞である。

要(い)る、切る、入る、走る、帰る　など